

東京大学東洋文化研究所  
附属東洋学研究情報センター

平成27年度事業報告

平成28年6月

## 目 次

1. センター概要	2
2. 教員	3
3. 委員会等	3
4. プロジェクト事業	4
1) 公募プロジェクト	4
2) センター機関推進プロジェクト	20
○重点プロジェクト	21
○一般プロジェクト	28
5. 研究成果の公開・発信事業	30
6. 研修事業	33
7. その他	34

# 東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター

## 1. センター概要

東洋学研究情報センター（Research and Information Center for Asian Studies、以下、センターと略）は、東洋学文献センター（昭和41年設置）に代わる東洋文化研究所の附属施設として、平成11年4月1日に新設された。センターは、研究所が行うアジアに関する先端的な研究と連動し、またその成果を踏まえながら、アジア全域を対象とする「アジア資料学」の確立を目指している。具体的には、「アジア地域の人文・社会科学（文献・造形資料、現代的諸課題）に関する資料・情報の収集・研究とその情報化」に関する事業を担っている。

センターの研究分野は、造形資料学分野、比較文献資料学分野及び平成21年度から増設されたアジア社会・情報分野の3つに分かれる。

造形資料学分野は、美術作品・建築・考古資料・民族学資料・地図・挿絵・映像・写真等の非文字資料を、比較文献資料学分野は、アジア諸言語で書かれた書籍、新聞雑誌、文書、碑文等の文字資料を、アジア社会・情報分野は、アジア・バロメーターなどのデジタル化された社会調査資料を主な研究対象とする。センターの教員スタッフは、造形資料学分野担当の教授2、比較文献資料学分野担当の教授4、アジア社会・情報分野担当の教授2からなる。

平成15年度から、新たに外部資金を戦略的に投入することによって事業の拡大・充実を行い、さらに、文部科学省科研費などにより実施された一般プロジェクトとも連動して、包括的な内容を持つアジア資料学の構築を目指した事業を実施するようになった。現在では、これらは機関推進プロジェクトとして継続的に実施されている。

平成21年6月には、文部科学大臣によって共同利用・共同研究拠点に認定され、翌平成22年度から全国の関連研究者コミュニティに対し、より開かれたセンターとしての活動を開始した。共同研究は上記の3分野にまたがって公募され、学内外の委員からなる運営委員会での審議によって、認定期間終了の平成27年度までに14件の課題が採択・評価された。

文献資料とデータベースはこれまでも広く国内外の研究者・学生に公開し利用されてきたが、それ以外の研究資源も含めた使いやすい公開方法の整備、より高次元なアジア研究データベース開発を通じ、研究者コミュニティや社会の要望に応え、新しい共同研究に発展しうるような共同利用の実現を目指している。

平成21～24年度には、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業に「アジア比較社会研究のフロンティア」が採択され、アジア社会・情報分野を中心に3年計画での最終年度が終了し、大きな成果を得た。

## 2. 教員

センター長	教授	高見澤 磨
副センター長	教授	長澤 榮治
	教授	平勢 隆郎
	教授	板倉 聖哲
	教授	大木 康
	教授	名和 克郎
	教授	園田 茂人
	教授	松田 康博

## 3. 委員会等

### 1) センター運営委員会

平成27年 6月26日 (メール審議)

#### 運営委員会委員

高見澤 磨	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター長
長澤 榮治	東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター 副センター長 比較文献資料学分野教授
菅 豊	東京大学東洋文化研究所汎アジア部門教授
大西 克也	大学院人文社会系研究科・文学部教授
岩月 純一	大学院総合文化研究科・教養学部准教授
井波 陵一	京都大学人文科学研究所教授
加藤 博	一橋大学名誉教授
加納 啓良	東京大学名誉教授
小長谷 有紀	人間文化研究機構理事
宮治 昭	龍谷大学文学部特任教授
宮嶋 博史	成均館大学校東アジア学術院 (韓国ソウル) 教授

## 2) センター委員会

### 開催日

平成27年	5月12日(火)	14:30～
平成27年	6月9日(火)	14:30～
平成27年	7月21日(火)	14:30～
平成27年	9月8日(火)	14:30～
平成27年10月	6日(火)	14:30～
平成27年11月	17日(火)	14:30～
平成27年12月	8日(火)	14:30～
平成28年	1月12日(火)	14:30～
平成28年	2月2日(火)	14:30～
平成28年	3月8日(火)	14:30～

### センター委員会委員

長澤 榮治	比較文献資料学分野、委員長
平勢 隆郎	造形資料学分野
板倉 聖哲	造形資料学分野
大木 康	比較文献資料学分野
高見澤 磨	比較文献資料学分野
名和 克郎	比較文献資料学分野
園田 茂人	アジア社会・情報分野
松田 康博	アジア社会・情報分野

## 4. プロジェクト事業

### 1) 公募プロジェクト

センターに蓄積されてきたアジアのデータベースを含む諸資料、人的ネットワーク、施設を活用し、アジア各地に関する多様な情報を、時間軸、空間軸に沿って比較・俯瞰し、アジアと世界の新しい理解方法を提案するための共同研究を募集し、実施している。中間評価の評価コメントを踏まえ、平成27年度は課題設定型の共同研究を中心に応募をした。平成27年度は新規課題2件、継続課題3件を採択した。平成27年度の実績報告書は以下の通り。

#### 課題1：学生の意識変化にみるアジアの近未来：アジア学生調査統合データ分析プロジェクト

#### 研究者

フィリピン大学ディリマン校・アジアセンター・准教授 米野 みちよ(申請者)

高麗大学校社会学科・主任 教授 Kim Chul-kyoo

ソウル大学校言論情報学科・教授 同大学アジアセンター・センター長 Kang Myung-koo

復旦大学社会学系・主任 教授 劉 欣

北京大学社会学系・教授 張 静

台湾大学社会学系・教授 何 明修

香港大学日本研究学科・准教授 中野 嘉子

Department of Sociology, National University of Singapore, Associate Professor TAN Ern Ser

東京大学東洋文化研究所新世代アジア研究／東洋学研究情報センター・教授 園田 茂人

研究期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日（1年間）

#### ◆課題の概要

2014年度、アジア学生調査の統合データが完成した。アジアの8つの国・地域（日本、韓国、台湾、中国（香港を含む）、フィリピン、ベトナム、タイ、フィリピン）をカバーし、2008年の第一波調査（サンプル数 3,283）と2013年の第二波調査（サンプル数 4,331）を含む大規模社会調査データの誕生である。

この統合データを利用した研究成果は、すでに出つつある。2014年2月27日と2015年2月26日には、高麗大学、北京大学、台湾大学、香港大学、フィリピン大学などの調査対象となった大学から研究者がやってきては、分析結果をめぐる検討を行っている（申請者も、この検討会に参加した）。また、東京大学の学生を中心にした日本語での論文集（『連携と離反の東アジア』勁草書房）が、2015年3月には刊行の予定となっている。

現在、別予算を利用して、インドネシア、マレーシア、ミャンマーといった東南アジアの地域を対象に学生調査を実施しているが、2015年3月末には、データが集まる予定となっている。これを受け、再度統合データを作成するとともに、できるだけ広く調査対象大学に声をかけ、統合データの分析プロジェクトに参加するよう、声をかける。具体的には、2015年7月に実施予定のセミナーに参加してもらい、データの形状から使い方についての情報共有を行うとともに（その予算については別途充当）、2016年2月に、フィリピンで成果報告会を実施。すぐれた論文をブラッシュアップして英語での論文集刊行を目指す。

#### ◆平成27年度の研究実施状況

すでに完成したアジア学生調査統合データベースを利用して、アジアを横断的に眺め、「連携と離反のアジア」という枠組みで、アジア規模で、考察を深めた。当プロジェクトで、高麗大学で開催された国際会議に参加し、またフィリピン大学で国際ワークショップを開催した。

2015年7月には、高麗大学にて開催された国際会議”Towards the Construction of East Asian Sociology: Challenges of Asian Student Survey and beyond”に参加した。これは、東京大学と高麗大学の大学院生と両校に関係する研究者らが、発表および討論し、また、交流する好機となった。

2016年2月にはフィリピン大学にて国際ワークショップ Changing Attitudes of the Students

and the Future of Asia: Analysis of Asian Student Survey Integrated Dataset” を開催した。なお、ワークショップの準備の為、2015年10月-12月には、東京大学とフィリピン大学をインターネット会議システム(UTOP)で結んで、それぞれの大学院の授業を共同で行った(3時間x5回)。

アジア・イメージ、アジアの地域統合、社会的距離の比較、アジアからみたアメリカ、東アジアのエンターテインメント・メディア、アジアにおける自国企業の選好など実に多くの討論がなされた。

#### ◆平成27年度の研究成果の概要

アジア・イメージ、アジアの地域統合、社会的距離の比較、アジアからみたアメリカ、東アジアのエンターテインメント・メディア、アジアにおける自国企業の選好など、学際的な討論がなされ、新たな知見が得られた。

「アジア学生調査」を通して、「データの砂漠」といわれたアジアから、ユニークな社会科学的な貢献が可能となったばかりか、アジアで連携しながら若手研究者を育てる意味が広く共有されることになるといった副産物も得られた。

統計手法に習熟した研究者にはアジアの現実が理解されず、アジア事情に詳しい研究者には統計手法が理解されていないといった、研究上の困難があったが、国際授業や会議を通じて、こうした困難を克服することができた。

アジア域内での研究協力の強化が期待されている現在、データをシェアしつつ研究を進める本プロジェクトのスタイルは、同種の試みのモデルとして、参加大学などで一定の評価を得られた。尚、本プロジェクトの成果は、英文の学術書として刊行すべく、具体的な準備を行っている。

### 課題2：歴史都市デリーの都市開発と遺跡保存－東京大学インド史跡調査団の再評価からの中世インド建築史

#### 研究者

早稲田大学イスラーム地域研究機構・招聘研究員 深見 奈緒子 (申請者)

INTACH Principal Director(AH) Divay Gupta

大阪大学・教授 山根 聡

関西学院大学・准教授 山根 周

京都大学大学院・助教 山田 協太

鹿児島県立短期大学・助教 宍戸 克実

東京大学東洋文化研究所西アジア研究部門・教授 梶屋 友子

研究期間：平成27年4月1日～平成28年3月31日 (1年間)

#### ◆課題の概要

本研究では、東洋文化研究所が保存する東京大学インド史跡調査団（1959年～1962年実施）の資料に基づき、現代のデリーを広域に調査し、都市開発と遺跡保存の状況、およびインドにおけるムスリム遺跡の現状を把握する。さらに、それらの資料を再評価しながら20世紀後半の中世インド建築史を振り返り、新たな建築史研究の視点を提示する。

12世紀末以後、ムスリム政権の拠点となったデリー一帯には、数多くの都市と建物が構築された。上記調査が行われた1960年代までは多くの建造物が現存したが、その後デリーの発展の中で消失した遺構も多い。本研究では中世デリーの遺跡を対象としつつ、20世紀後半のグレーター・デリーの変容の様相を捉える。

なお、本資料に関しては、東洋文化研究所所蔵アジア写真資料集成データベースの中で、「インド史跡調査」データベースとして、公開されている。このデータベースには、いくつかの改新が必要である。加えて現状を追加し、遺跡変容の様相を明らかにする。

デリーの中世イスラーム建築の特徴は、モスク、墓建築等に加え、水利施設を含み広域に点在する。荒松雄博士たちの一連の研究を基盤に、地理情報システムを用いたデータを加えることで、より詳細な中世デリーの都市史を構築し、技法や紋様など細部データを整理することによって、新たな側面を加える。最終的には申請者が対象としているインド洋世界の建築史と統合する形で、南アジアのイスラームと関連する建築史の再構築をめざす。

#### ◆平成27年度の研究実施状況

東京大学遺跡調査団の成果物としての『デリー第一巻 遺構総目録』（1967年）では、機能別に調査物件、計385件を整理している。それらの遺跡の遺存状況と現況を調べるために現地調査を、8月7日から9月15日まで、INTACH(Indian National Trust for Art and Cultural Heritage)の協力を得て進めた。今回の調査においては、本著に取り上げられた物件を地図とグーグルアース上で同定し、実際に現地を訪問するという手法をとった。遺構分布地はかなり広く、南北26キロ、東西14キロに及ぶ。2つの地域をはずれた遺構と、許可を得られずに実見できなかった3件以外は、全ての遺構について所在を確かめることを試みた。調査後の検討会を、同年10月26日に京都大学において開催し、現在調査結果を整理中である。

なお、「南アジア都市居住の現在」と題して、6月25日に京都大学において、以下2題の発表が行われた。「カスール市の構造について」山根聡（大阪大学）、「フラグメンテーションと出会いのインド洋：ナゴールダルガーを事例として」山田協太（京都大学）。

#### ◆平成27年度の研究成果の概要

現地調査整理の結果、1960年から2015年までの55年間に、385件中、6割ほどは保存・利用され、4割ほどが消失・荒廃したことがわかった。墓、その他、モスクの順に保存される傾向が大きく、水利施設や墓地は、消失してしまった実例の方が多い。キブラ側に壁面をたてた墓地には、小規模なものも多く、破却しやすい点が考えられる。一方、水利施設では、井戸等地下構造物を、埋め立ててしまうことが多い。

消失・荒廃の大きな原因は都市化、特に住宅開発にある。その他、モスクなどを新築し、古い建築



を破却する場合もある。大半を占めるわけではないが、消失・荒廃において考慮しなくてはならない点に、都市計画に基づいた公園化と、遺構をそのままに放置してしまう点がある。

加えて、東洋文化研究所に保存されデジタル化を済ませていないインド史跡調査団のポジフィルムのデジタル化を野久保氏が担当した。本調査から、中世遺構ながらデリー調査団の調査結果には含まれない事例もあることが判明し、再検討が必要である。この点を解明するためには、既往研究を検討し、再検討が必要となる。

### 課題3：中世寺院における宋代仏教文化受容の統合的研究－泉涌寺流を中心とした宋代仏教の相対化への試み

#### 研究者

宗教法人御寺泉涌寺宝物館「心照殿」・学芸員 西谷 功（申請者）  
花園大学・教授 中尾 良信  
大阪大学・教授 藤岡 穰  
京都大学・准教授 稲本 泰生  
奈良国立博物館・保存修理指導室長 谷口耕生  
東京国立博物館・研究員 塚本 磨充  
鎌倉国宝館・学芸員 高橋 真作  
法政大学・専任講師 大塚 紀弘  
東京大学東洋文化研究所東アジア第二研究部門・教授 板倉 聖哲

研究期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）

#### ◆課題の概要

本研究は第一に「中国絵画所在情報データベース」を援用して調査を行い、その成果により「中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト」の推進を図ることを課題とする。第二に、中世寺院社会において入宋僧が請来した宋代仏教の思想や儀礼文化、美術作例の受容過程を、従来の宗派史観や顕密仏教論から開放し、東アジア仏教的視角から再解釈を行い、関連資料を蒐集することで、鎌倉仏教の新たな宗教史的・美術史的・文化史的意義の統合的構築を試みる。

その基点寺院を入宋僧・俊苻開山の泉涌寺（京都市）とする。同寺は近年発見の『南山北義見聞私記』（同寺蔵）により、日本の禅宗寺院と同様に、南宋仏教の寺院制度、出家生活の作法・諸儀礼などを興行し、また儀礼空間において釈迦三尊・羅漢・祖師などの仏像仏画の奉安例が明らかとなっている。本発見は（1）「宋代仏教＝禅仏教」イメージからの脱却とその相対化、（2）日宋間における同主題の美術作例流行の要因を「儀礼興行」という新視角による再解釈を可能とし、（3）泉涌寺僧や同寺参学の禅僧・律僧・浄土僧・顕密僧に対する擬似的宋代仏教の受容とその展開、を想定可能にするもので、従来の中世寺院社会における宋代仏教文化の受容や影響を抜本的に見直す最新の研究

視座に位置付けられる。

そこで、これらの視座を基点に、泉涌寺や関連寺院、各博物館所蔵の聖教・美術作例の調査を行い資料蒐集することで、宋元・鎌倉仏教文化の再解釈を行い、従来の史観から解放された仏教学・仏教史・美術史の立場から中世寺院社会における宋代仏教文化受容の総合的研究を行うことを課題とする。

#### ◆平成27年度の研究実施状況

(1) 初年度の成果を踏まえ、引き続き、寺院（泉涌寺および塔頭、妙心寺）、博物館（京都国立博物館、奈良国立博物館ほか）、個人所蔵の文物を中心に、涅槃図、羅漢図、十王図、祖師像などの調査、撮影を行った。本調査で蒐集した文物の一部は「中国絵画デジタル・アーカイヴ・プロジェクト」の資料に加えた (2) (1) の調査成果を踏まえ、泉涌寺蔵の儀礼書『南山北義見聞私記』の研究輪読会を定期的に開催し、検討を加えた。『南山北義見聞私記』の翻刻作業を終えた。 (3) 本共同研究の報告として2016年3月17日に東京大学でシンポジウムを開催した。

#### ◆平成27年度の研究成果の概要

今年度の成果として、前年度の調査時、シンポジウムの議論のなかで見いだされた検討課題を中心に、寺院・博物館・個人所蔵の宋元仏画、それを模した仏画を中心とした文物（仏像、聖教も含む）を五十数点ほど調査を行い、美術史・歴史学・仏教学・儀礼史などの視点から検討を加え、中世日本社会における宋代仏教文化受容の具体的な事例を抽出した。こうした成果の一端は、板倉「梁楷「出山釈迦図」（東京国立博物館）をめぐる諸問題」『佛教藝術』344、高橋「鎌倉・光明寺蔵「十八羅漢図及び道宣律師像」について」『佛教藝術』345、西谷「釈迦十六羅漢図」『鴨東通信』98、同「禅律寺院における宋式「首楞嚴呪」「施餓鬼」儀礼」『明日の東洋学』34、同「泉涌寺旧蔵「涅槃変相図」とその儀礼の復元的考察」『佛教藝術』344として学術雑誌等に掲載された。また、本年度の調査を踏まえ、大塚「服装から見た日本中世の律僧」、塚本「道宣律師・元照律師像」の絵画表現をめぐる諸問題、西谷「泉涌寺における宋代仏教儀礼文化の受容」と題して同研究会シンポジウムで口頭発表を行った。

#### 課題4：日本所在漢籍に見える東アジア典籍流伝の歴史的研究－宮内庁書陵部蔵漢籍の伝来調査を中心として－

##### 研究者

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 高橋 智（申請者）  
国立歴史民俗博物館・准教授 小倉 慈司  
京都大学人文科学研究所・教授 金 文京  
慶應義塾大学文学部・教授 佐藤 道生  
慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 住吉 朋彦

国文学研究資料館・教授 陳 捷

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫・教授 堀川 貴司

東京大学東洋文化研究所東アジア第二部門・教授 大木康

研究期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）

#### ◆課題の概要

本研究は、平成24～25年度共同研究のテーマ「日本漢籍集散の文化史的研究―「図書寮文庫」を対象とする通時的蔵書研究の試み―」の継続研究として、宮内庁書陵部所蔵漢籍の伝来調査と各図書の書誌調査を一体化することによって伝統的蔵書文化の特徴を明瞭に把握しようとするものである。既に、伝来単位である公家・大名・幕府・近世漢学者等に焦点を当てた分担調査が進行中であるが、伝来単位の蔵書構成を解明することは、漢籍文化がどのように我が国に浸透し発展してきたかを理解する有力な観点の一つであることが共同研究者の共通する認識となっている。最も歴史ある書陵部蔵書は、アジア諸国の皇室・宮廷蔵書文化と比較しうるものであって、ここに我が国固有の書物文化のエキスをみることが出来る。漢籍の刊・写、時代鑑定、唐本・韓本・和本の審定を基礎として、中世博士家・三条西家等公家・東福寺を始めとする古刹・日典や大通等の積家、更に金沢文庫・足利学校を中心とする学堂と、近世を遡る蔵書史と、徳川家康以来の駿河御譲本・楓山文庫・昌平坂学問所、毛利高標・市橋長昭・新見正路等の大名武家の蔵書史を有機的な流動史として捉え、更に漢籍伝来の歴史を見据え、中国・朝鮮・日本・越南の蔵書文化との連携・共有・差異を探る基礎知識庫の構築を目指すものである。

#### ◆平成27年度の研究実施状況

昨年同様、宮内庁書陵部本の書誌調査を基本に、漢籍蔵書文化の概略を把握する調査方法として、書陵部に伝わる家別の伝本調査を行った。それぞれの家と担当（分担者）は次の通り。宮家・小倉、九條家・佐藤、秘閣・高橋、毛利・金、山内・陳、古賀・堀川、国分・大木。今年度はこの調査をもとに、各漢籍伝本が歴史的にどのような流伝を辿ったのかのテーマに焦点をあてて、漢籍文化を築いてきた主要な日本の蔵書単位を、分担を決めてそれぞれの項目について平易に解説し、その単位がどのような蔵書を伝えたか、その結果をデータベースにして広く利用されるようにする成果を目指した。調査データの検討などの研究会は、5月22日・6月18日（東文研）、8月17日・9月2～3日（慶応）10月31日（東文研）、平成28年1月8日（慶応）、2月19日（東文研）でそれぞれ開催した。

#### ◆平成27年度の研究成果の概要

漢籍の伝来調査の目的は、一つには、どのような階層の人や機関が受授に関わったかの概要を歴史的に知ること、もう一つは、逆に、その階層や機関がどのような漢籍を集め、講読したのか、を知ることである。日本の漢字文化の伝統を構成してきた主体についての把握とその構成の内容、ということであろう。宮内庁書陵部にはその主体（階層・機関）と内容（蒐集した漢籍）を知る資料が豊富に

所蔵されている。その主体を、清原家・三条西家・東寺・東福寺・宝勝院・普門院・建仁寺・金地院・日典・金沢文庫・市橋長昭・佐伯毛利・徳山毛利・新宮城書蔵・賜蘆文庫・林家・林読耕斎・林述斎・向山黄村・屋代弘賢・狩谷椽斎・足利学校・養安院・駿河御譲本・昌平坂学問所・江戸医学・小嶋宝素・多紀氏・渋江抽斎・森立之の30項目に絞り、所蔵していた漢籍はどのような内容か、その人物・機関の意義はどこにあるのか、といったテーマを研究し、そのうち17項目について解説と所蔵書目を作製し、「旧蔵者データベース」を試験的に作製した。蔵書者の「名称」、その蔵書の「来源」、その旧蔵者のもので、書陵部所蔵の「漢籍書目」を検索できるシステムである。

### 課題5：広島大学文学部旧蔵漢籍目録作成のための研究

#### 研究者

宇部工業高等専門学校・准教授 赤迫 照子（申請者）

二松学舎大学大学院文学研究科中国学専攻・特別招聘教授 野間 文史

広島大学大学院文学研究科・教授 富永 一登

東京大学東洋文化研究所東アジア第二部門・教授 大木 康

研究期間：平成26年4月1日～平成28年3月31日（2年間）

#### ◆課題の概要

広島大学文学部旧蔵漢籍（現在は大半を広島大学図書館に移管）は、原爆による被災や、昭和から平成にかけて四十年近く費やされたキャンパスの統合移転の他様々な事情によって、長年、整理が滞っていた。申請者は2007～2009年度（平成19～21年度）に広島大学図書館研究開発室、2010年～2012年度（平成22～24年度）には広島大学大学院文学研究科に所属し、広島大学文学部旧蔵漢籍の調査及び目録作成に取り組んだ。広島大学文学部が蒐集した漢籍約4,000点の中には、明本を含む『文選』関係資料・『李卓吾先生批評西遊記一百回繪圖』をはじめとした善本が存する。国内外の研究者の閲覧に供するためには迅速に残りの調査を完了させて、漢籍目録を刊行しなければならない。

この広島大学文学部旧蔵漢籍目録の刊行は、広島大学所蔵資料への評価のみならず、申請者が受講した東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター主催漢籍整理長期研修への再評価にもなる。広島大学文学部旧蔵漢籍目録刊行は、漢籍整理長期研修後、受講者が所属の図書館で漢籍整理を実現するためのモデルケースとして他機関に示すことが可能である。そこで東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センターと共同で、広島大学文学部旧蔵漢籍目録刊行を漢籍整理の普及の促進を図るためのモデルケースとして構築し、国内諸機関、特に地方大学における漢籍整理事業のあるべき方向性を提唱する。

#### ◆平成27年度の研究実施状況

- ①冊子目録編纂作業を行い、出版原稿を完成させた。
- ②成果物として、赤迫照子編『廣島大學文學部舊藏漢籍目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 第20輯 平成28年2月）を刊行した。
- ③研究会にて、来年度以降刊行予定である索引の作成方法や、出版の方向性を定めた。
- ④漢籍目録の紹介・目録作成の具体的な方法・地方における漢籍整理の必要性について、公開講座で言及した。

◆平成27年度の研究成果の概要

著書：赤迫照子編『廣島大學文學部舊藏漢籍目録』（東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 第20輯 平成28年2月 目録部分627頁）

以下、各プロジェクトの活動状況等をまとめた

1. 共同利用・共同研究活動の状況

(1) 共同研究のための主な研究会、シンポジウム等の実施状況

開催期間	形態(区分)	対象	研究会等名称	概要	参加人数
H27.7.27-28	センターシンポジウム	国際	“Toward the Construction of East Asian Sociology: Challenges of Asian Student Survey and beyond”	アジア学生調査の統合データを利用した成果のうち、優れているものについての報告、及び、アジア比較研究のフロンティア的成果を持ち寄っての国際シンポジウム。今後のデータの共同利用の可能性などについてのラウンドテーブルも実施した。 <a href="http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedJul291344352015">http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?id=WedJul291344352015</a>	31
H28.3.17	センターシンポジウム	国内	シンポジウム「中世寺院における宋代仏教文化受容の統合的研究」	東京大学内で開催し、3名の研究成果報告と質疑応答	40
H27.4.17(ほか8回(9日間)開催)	研究会・研究打ち合わせ会議	国内	書陵部蔵漢籍調査研究会	宮内庁書陵部蔵漢籍の調査報告を行い検討を加える(参加人数はのべ)	96
H27.6.25	研究会	国内	南アジア都市居住の現在	共催:NIHUプログラム・地域研究関連携研究の推進事業「南アジアとイスラーム」(IAS-INDAS連携事業)	11
H27.10.13-11.24	研究会	国際	アジア学生調査の再分析プロジェクト	リーディング大学院プログラム「多文化共生・統合人間学」と協力し、同プログラム履修者とフィリピン大学アジアセンターの大学院生をインターネットで繋げ、双方の研究成果を報告し合った。フィリピン側から6名、東大側から4名が報告し、2月の会議に向けてのリハーサルを行った	12
H27.10.26	研究会	国内	2015年夏のデリー調査報告	調査報告会	9
H28.2.25-26	センターワークショップ	国際	Changing Attitudes of the Students and the Future of Asia: Analysis of Asian Student Survey Integrated Dataset	英語論文集刊行のためのクローズド・ミーティング。2015年10月から調査対象大学の責任者に公募の手伝いをしてもらい、選抜された学生の論文を集めて、フィリピン大学アジアセンターで論文の内容をめぐる検討会を行った	13

(2) 上記(1)の研究会、シンポジウム等の参加状況

区分	平成27年度								
	機関数	受入人数			延べ人数				
		外国人	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	外国人	若手研究者 (35歳以下)	大学院生		
東京大学内	9	20	6	7	9	60	10	34	36
		8	5	0	3	12	8	6	8
国立大学	7	10	0	1	1	19	0	1	1
		0	0	0	0	0	0	0	0
公立大学	2	2	0	0	0	3	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
私立	14	25	0	4	5	78	0	21	23
		6	0	2	2	22	0	10	10
大学共同利用機関法人	2	3	2	1	1	8	1	1	1
		2	2	1	1	2	1	1	1
独立行政法人等公的研究機関	9	10	0	0	0	11	0	0	0
		4	0	0	0	4	0	0	0
民間機関	4	4	0	0	0	4	0	0	0
		0	0	0	0	0	0	0	0
外国機関	10	35	32	20	21	101	91	73	78
		17	15	16	15	73	49	49	42
その他	0	8	0	0	0	8	0	0	0
		3	0	0	0	0	0	0	0
計	57	117	40	33	37	292	102	130	139
		(40)	(22)	(19)	(21)	(113)	(58)	(66)	(61)

(3) 共同利用・共同研究に供する施設・設備及び資料等の利用状況等

○データベースの作成・活用・利用・公開状況

	データベース名	蓄積情報の概要	公開方法	蓄積量／利用・提供状況	
1	Asian Student Survey	アジア各国の大学生がアジアの将来についてどう考えているのか、についてのアンケート調査。2008年および2013年(一部2014年)に実施。	調査対象大学の共同研究者およびデータベースを利用した授業履修者への直接供与(英文論文集が出るまで完全公開は控えている)	蓄積量	348の質問項目、9の国・地域、20の大学で学ぶ、2時点(2008年、2013年、2014年)合計8,270名分のデータ
				利用(アクセス)件数	36名
2	東京大学東洋文化研究所デジタルアーカイブインド史蹟調査団	1959年から1961年に実施されたインド史蹟調査団の撮影写真および実測図面の公開	平成17年度より公開	蓄積量	写真点数 9,449点
				利用(アクセス)件数	1,235,603

3	東洋文化研究所 「中国絵画所在情報データベース」	東アジア美術室で国内外の中国絵画コレクションの悉皆調査を継続的に行ってきた。H27は調査した寺院、機関所蔵品の情報収集をした	HPで公開	蓄積量	23,931
				利用(アクセス)件数	34,607
4	宮内庁書陵部図書 寮文庫所蔵漢籍旧蔵者データベース	日本の歴史上重要な中世・近世の漢籍所蔵機関の解説とその蔵書の現状	現在は試験的に慶應義塾大学のサーバに保管、パスワードによる運用	蓄積量	約4MB
				利用(アクセス)件数	一般公開前

(4) 独創的・先端的な学術研究を推進する特色ある共同研究活動

・アジア学生調査【課題1】

・55年前に撮影された写真資料とデータを元に、建築史研究者、都市研究者、インド研究者が2015年の現地調査を行い、両者を対比する試みである。そのために現地の考古学局の独立法人と共同で調査を進める。また、GISデータおよびキャドによる図化の手法を用い、公開にもGoogle Mapを使用する。【課題2】

・本研究は、美術史、歴史学、仏教学でそれぞれに蓄積された「宋代仏教」に関する学術成果を、それらの事象を集積した「寺院」という〈場〉から統合的に捉え直すことを目的としている。こうした視座のもとで、研究領域を異にする専門家を一堂に会したシンポジウムの開催、さらには調査を推進することで、各分野で定説化する事象に対し、再解釈、新視点の提示を可能にした。【課題3】

・現在、中国浙江省図書館がウェブ上で中国蔵書家印記データベースを公開しているが、中国では、蔵書文化研究が盛んで、図書流通文化の成果がいくつも現れている。そこで、中国の関連して、東洋文化の一環としての、日本の伝統文化である漢字文献の受容の歴史を検討する上で必要な、中世から近世にかけての所蔵機関を解説し、その蔵書印記から知られる旧蔵本の実態を、宮内庁書陵部に現存する漢籍を用いて整理を試みた研究は、これまでに見られない研究成果である。【課題4】

(5) 国公私を通じた研究者の参加を促進するための取組状況

・参加研究者は国立、公立、私立にわたる。【課題2】

・本研究では、すでに、国立・私立大学、国立・公立博物館、民間研究機関所属の研究者で構成されているが、研究推進上、構成員がもつさらなる人的ネットワークにより、作品の公的所蔵機関(大学・博物館諸)、諸寺院、個人などとの多彩な交流をもつに至った。こうしたネットワークの構築と連動して、シンポジウムを開催し、関心を持つ専門家との交流もはかる機会を設けている。

【課題3】

・本研究を履行するにあたって、分担者には、国文学研究資料館・国立歴史民俗博物館・慶應大学と公私に亘る指導者を加え、研究会には、東京大学東洋文化研究所・慶應大学と会場を柔軟に設定



し、分担研究者以外の研究者も随時、参加できるように取り組んだ。早稲田大学・河野貴美子氏にはとりわけ協力を仰いだ。【課題4】

(6) 共同利用・共同研究を通じた特色ある人材育成の取組

・リーディング大学院プログラム「多文化共生・統合人間学」と協力し、同プログラム履修者とフィリピン大学アジアセンターの大学院生をインターネットで繋げ、双方の研究成果を報告し合った。フィリピン側から6名、東大側から4名が報告し、2月の会議に向けてのリハーサルを行った。【課題1】

・現地調査において、若手研究者の参加を得た。また日本人だけでなくインドの研究者の参加もあった。【課題2】

・本研究は、美術品・聖教・歴史資料などの「モノ」を基礎資料とするため、調査を重視する。それぞれの分野での調査方法は大きく異なるが、それらを同時に行うことで、他分野の調査方法の理解、習得することを推進するものとする。こうした調査には、関心を持つ若手研究者や大学院生に積極的に参加してもらい、学際的研究に対応できる人物の育成を目指しており、本年は去年の参加者に加え、新たに十名程度加わっている。【課題3】

・中世から近世にかけての漢籍収蔵を担った諸機関は、寺院、個人、特殊文庫などその範囲は広い。その特色をカバーするべく、分担者を指導的立場に置き、その指導下にある若手の共同研究者に、機関の解説を執筆依頼し、また、宮内庁書陵部に旧蔵者ごとの漢籍の調査をともにあたっていた。そしてその研究会も複数回開催され、若手研究者の古典籍理解と書誌学的経験を積み上げる格好の機会となった。【課題4】

・本研究が実現したのは、そもそも研究代表者である赤迫照子が平成19年度東京大学東洋文化研究所附属東洋学情報センター主催漢籍整理長期研修を受講し、指導を受けたことによる。したがって、本研究の成果物『広島大学文学部蔵漢籍目録』の刊行は、漢籍整理長期研修受講者が所属の図書館で漢籍整理を実現するためのモデルケースとして位置づけられる。【課題5】

(7) 関連分野発展への取組（大型プロジェクトの発案・運営、ネットワークの構築 等）

・英文学術書刊行に向けて具体的な準備を進めている（出版社との交渉、必要な予算の確保、書籍の構成、執筆者の選定、等を行っている。）【課題1】

・本研究成果は、INTACH(Indian National Trust for Art and Cultural Heritage)との協力の上になり立ち、古都デリーが今後世界遺産としての登録を目指す際の基礎資料となる。また、デリーだけでなく、5年前の資料のある地方の中世スラム建築への発展性も視野に入れている。【課題2】

・すでに共同研究者の大塚「日本中世前期における版本文化の基礎的研究」（日本学術振興会科学研究費補助金、若手研究B）と連動した調査を行っており、調査成果を踏まえた展示を泉涌寺宝物館で公開している。また、共同研究者のネットワークにより、博物館・寺院・個人などの多様なネットワーク構築に成功しており、さらなる研究視座からの「宋代仏教」「仏教美術」などの見直しを図る研究プロジェクト、あるいは展覧会開催へと展開が期待できる。【課題3】

・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究A）による「宮内庁書陵部蔵漢籍の伝来に関する再検討ーデジタルアーカイブの構築を目指してー」（代表・住吉朋彦）による漢籍画像・書誌デー

タの公開に伴い本研究の成果である旧蔵者データベースもその公開運営に連動していく。当面、同じサーバー内に保管され、試験的に運用していくが、将来、こうした画像データベースにリンクした蔵書文化解説として利用されることを目指している。【課題4】

・昨年度の成果である広島市立中央図書館編『広島市立中央図書館蔵浅野文庫目録 漢籍編』（平成27年3月）に続き、磯部彰編著『広島市立中央図書館蔵浅野文庫漢籍図録』（東北アジア研究センター叢書第56号 東アジア出版文化資料集 平成27年11月）が刊行された。これらと『広島大学文学部蔵漢籍目録』の計3冊の刊行によって広島県域全体における漢籍目録整備が飛躍的に進展し、共同利用が可能になった。【課題5】

## 2. 共同利用・共同研究による研究成果

(1) 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数（参加研究者がファーストオーサーであるものを対象）

区分	平成27年度	
論文数	41	13
うち国際学術誌に掲載された論文数	(29)	(5)

※下段の（ ）内には、東文研以外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 分野の特性を踏まえて、参加研究者がファーストオーサーである場合の他に、コレスポンディングオーサーである場合や指導した大学院生がファーストオーサーになっている場合など、論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合は、その役割を明示の上で以下に記入。

役割	編者、調査研究全般の指導	
区分	平成27年度	
論文数	6	1
うち国際学術誌に掲載された論文数	(6)	(1)

※下段の（ ）内には、東文研以外の研究者による成果（内数）を記載。

(注) 高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合、その雑誌名、掲載論文数、そのうち主なもの※ 東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 第20輯	1	『広島大学文学部舊藏漢籍目録』	<u>赤迫照子</u>
復旦大学文史研究院 編『全球史、区域史与国別史—復旦、東大、普林斯顿三校合作会議論文集』中華書局	1	「16、17世紀的世界文学(中国語)」	大木康
彭小妍 編『翻譯與跨文化流動:知識建構、文本與文體的傳播』中央研究院中國文哲研究所	1	「元雜劇的東渡與日本能樂關係重探(中国語)」	大木康
International Communication of Chinese Culture On Line, Berlin, Heiderberg: Springer	1	"Able official or comedian? How was Feng Menglong perceived through the eyes of his contemporaries?"	大木康

(注) インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合は、以下にインパクトファクター以外に顕著な業績と判断できる適切な指標とその理由を記載の上で、掲載雑誌名等を記載。  
 ※東文研以外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す。

インパクトファクター以外の指標とその理由		・外国語執筆ならびに査読があることにより、国際的評価が高い ・ニューズレターとして知名度が高く、国内の学術機関に幅広く配付されている。また、Web上にて公開されている。	
掲載雑誌名	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
Communication of Chinese Culture On Line	1	Able official or comedian? How was Fen Menglong Perceived through the eyes of his contemporaries?	Okii Yasushi
翻譯與跨文化流動:知識建構、本文與文體的傳播(台湾中央研究院)	1	元雜劇的東渡與日本能學關係重探	大木康
亜洲文化	1	論近代以前中日韓文化交流及其国家観的衝突	<u>金文京</u>
『明日の東洋学』No.34	1	『広島大学文学部舊藏漢籍目録』の刊行	<u>赤迫照子</u>

(2) 共同利用・共同研究による特筆すべき研究成果 (特許を含む)

- ・本調査のことが、インドの新聞および雑誌に取り上げられた。【課題2】
- ・東アジアの伝統文化である漢字文献の収蔵と流伝の研究を具体的に日本の著名な歴史収蔵機関について調査し、現存本による旧蔵の実態を推察する資料を提供したことは特筆に値する。この研究が幅広く認識されることになれば、今後の東洋文化史に大きな起点をもたらすであろう。【課題4】
- ・研究成果物として、赤迫照子編『広島大学文学部舊藏漢籍目録』(東京大学東洋文化研究所附属東洋学研究情報センター叢刊 第20輯 平成28年2月)を刊行した。該書は、国内外の学術機関・研究者約450宛に送付された。これによって、広島大学文学部旧蔵漢籍の共同利用が可能になった。【課題5】

(3) 共同利用・共同研究活動が発展したプロジェクト等

プロジェクト名	主な財源	プロジェクト期間	プロジェクトの概要
宮内庁書陵部收藏漢籍の伝来に関する再検討ーデジタルアーカイブの構築を目指してー	日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究 A)	平成 24 年度 ～平成 28 年度	書陵部所蔵漢籍の画像データのオンライン化と書誌データの調査

(4) 1 - (1) 以外の公開講座、公開講演会等の実施状況

シンポジウム・講演会		セミナー・公開講座		その他		合計件数	
件数	3		4		1		8
開催期間	形態(区分)	対象	公開講座等名称	概要	参加人数		
H27.5.23	講演会	国内	広島大学大学院文学研究科退職記念講演	講演題目「『夢』から始まった『小説』と『文選』」	70		
H27.6.20	講演会	国内	サテライトキャンパスひろしま「日本における中国文学の受容と変	講義題目「『文選』の受容と訓読」	8		
H27.7.30	公開講座	一般	花園大学京都学講座	宋代仏教文化から禅宗寺院と泉涌寺の関係を述べた	200		
H27.10.17	研修会	国内、一般	龍谷大学仏教学科現地研修会	東アジア仏教の視点から泉涌寺の歴史を講演	70		
H27.10.24	公開講座	一般	泉涌寺宝物館文化講座	鎌倉時代における泉涌寺のくらしを宋代仏教の視点から講演	23		
H27.10.31	公開講座	国内	宇部高専市民文化サロン「くずし字で読む古典」第1回	日本の古典籍・漢籍の基礎知識を紹介し、原典に触れるたのしみについて説明した。	35		
H27.11.14	公開講座	国内	宇部高専市民文化サロン「くずし字で読む古典」第2回	日本の古典籍・漢籍の基礎知識を紹介し、原典に触れるたのしみについて説明した。	35		
H27.11.21	講演会	国内	平成27年度「『論語』の学校ーRONGO ACADEMIAー」	講義題目「近代日本における『論語』と孔子に関する研究」	420		

※具体的な年次活動報告及び最終報告書はセンターHP で公開中 <http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/>

## 2) センター機関推進プロジェクト

研究情報の収集，資料整理やデータベースの構築とその公開に関わるプロジェクトを所内で募集し，実施している。

重点プロジェクト……センター予算によって重点的に実施するもの。

一般プロジェクト……センター予算外から予算措置を講じて実施するもの。

### 平成27年度センター機関推進プロジェクト一覧

	NO	分野	申請者	プロジェクト名
重点	1	文献	松田	中華圏現代史貴重史料の収集・整理
	2	文献	名和	日ネ協会旧蔵資料データベース最終調整
	3	造形	板倉	東アジア美術アーカイヴ・プロジェクト
	4	社会情報	園田	アジア学生調査統合データの作成と利用
	5	文献 社会情報	田中	日本政治・国際関係データベースプロジェクト
	6	文献 社会情報	張	中国における省別、企業別食糧貿易資料の収集と整理
一般	1	文献、 造形、 社会情報	真鍋	富山妙子画伯コレクションー第三世界と Narrative Art-
	2	文献	森本	ラジャブザーデ文書コレクションの研究

## 重点プロジェクト

### 1. 中華圏現代史貴重史料の収集・整理 / 松田 康博 [文献]

#### ◆プロジェクトの趣旨、全体計画

本プロジェクトは、「台湾現代史貴重史料の収集・整理」（機関推進プロジェクト平成 22-24 年度）および「中華圏現代史貴重史料の収集・整理」（機関推進プロジェクト平成 25 年度）の後継プロジェクトである。これらは、中華圏の貴重資料収集をプロジェクトとして予算化し、より系統的・機動的な収集と整理を行うものである。申請者はこれまでも台湾のみならず香港や中国大陸の貴重史料を収集してきたが、台北に加え、他地域の古書店の史料供給源を開拓し、散逸してしまう前に現代史に関する貴重史料を収集することが目的である。

#### ◆今年度の研究実施状況

台湾の国立政治大学への研修出向の機会を利用して積極的に台湾での史料収集を進めた。平成 28 年 1 月 27 日現在、所定の予算と部門基盤構築費を併せ、古書・档案・その他について以下の収集が済んでおり、順次東文研図書室に納入している。

#### 台北での購入分

書名・档案・その他		
勳匪戦史 (1-10、12 卷)	戦区党務幹部輔導進修工作之檢討與改進報告	匪偽「憲法修改草案」批判選輯
莊敬自強破敵勝敵	羅副主任簽呈主任之意見	中共禍国殃民三十年
誰替共匪文宣開路？	痛苦的教訓莊嚴的使命	匪俄辺界談判與毛共伴狂作態
認識敵人	中国近現代政治体制の演变與發展	毛共「九大」後の趨勢
中国国民党與台湾	中共香港政策秘聞実録	莒光文選集：台独問題剖析
福建省匪偽交通設施之研究	堅苦卓絶繼往開来	緬甸蕩寇志
密碼語保密管制與洩密違規處理準則	毛共陷於内外交迫的困境	国際法院对尼加拉瓜控告美国案之处理他
参謀作為 (一)	莒光文選集 (7)	Certain problems relating to human rights in the Republic of China
第十届国际青年工作研習会特刊	保証貫徹勿忘在莒運動公約	The right of organize in the Republic of China
国際法與武力之使用	Party vs. State in Post-1949 China: The Institutional Dilemma	The law governing the disposition of juvenile cases
中共対台政策的分析	二十世紀的中国边疆研究	軍隊復員與国民義務勞力編成計画 芻議
我国国際法律地位及重返国際組織問題	The Chinese Problem	統戰與反統戰

国際法上之承認與中華民國	中国知識分子的覺醒	王子歩先生八十五回憶録
従国際航空法論中共東海演習	我国領海寬度問題之立場及其展望	恭誦總裁「推行革命實踐運動的回顧並提示今後施政の方針」訓示誦後感
行政立法兩局議員年報一九八八	金馬地区戰地党務改制後之檢討	如何加強党在敵後敵武装闘争
中美国會議員聯誼会	如何建立戰地党政關係	中国国民党各級政治綜合小組組織規程
胡国振先生紀念集	中国国民党党史綱要	本党在戰地基層組織發展的重要性
共產国際主義批判	恭誦總裁对「文藝會談」訓示心得報告	本党現階段党務工作綱領
毛沢東思想的歴史結論	我們心有的認識	革命實踐研究院馬祖党務第一研究組五十三年第次專題討論
共產極權主義の本質	国軍「莒光週」政治教育教材	揭發共匪暴行的有効方法
歩兵師通信兵營	泰威專案（第2卷）	党的行動指導原則誦後感
我們以中国国民党為榮	越南華僑国籍問題研究	對於本党党章修改的意義
出使越南記	中国国民革命運動敵發展表解（一）	
有關当前中美關係重要文件彙編	如何加強敵後反共革命行動摧毀匪偽政權	

#### ◆今年度の研究成果の概要

東文研図書室に納入している貴重資料は、平成25年度から「現代台湾文庫」および「現代中国文庫」として公開されており（1月27日現在、1477件が登録済）、東文研のホームページでもその紹介を行っている（<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~ymatsuda/jp/project.html>）。

台湾で収集した档案資料の整理に関しては、清水麗特任研究員が東文研図書室と協力してこれを進めており、公開を始める予定である。

## 2. 日ネ協会旧蔵資料データベース最終調整 / 名和 克郎 [文献]

#### ◆プロジェクトの趣旨、全体計画

社団法人日本ネパール協会の旧蔵資料は、1950年代から70年代初頭に主にネパール国内で出版されたネパール語及び英語の多様な書籍・パンフレット等からなる、貴重なコレクションである。本プロジェクトは、同資料についての基本的なデータベースを作成することを目的とした一連のプロジェクト「日ネ協会旧蔵資料データベース構築」、「日ネ協会旧蔵資料データベース拡充」、「日ネ協会旧蔵資料データベース整備」を受け継ぎ、申請者の長期海外出張等のため大幅に遅れていた、データベース公開のための最終的な諸作業を行うものである。

#### ◆今年度の研究実施状況

昨年度までの作業を基盤として、データベースの公開に向けたさらなる作業を行った。具体的には、紙質が低下しているものも多い各種資料のスキャンを順次進めると同時に、以前のセンター機関推進プロジェクト「日ネ協会旧蔵資料データベース構築」で作成したシステムに残っていた検索上の不具合を修正した。併せて、これまで行った書誌情報及びスキャン画像の内容の確認、画像データと現物との照合、公開のための画像データの微調整、等を行った。なお、資料のスキャンと整理のためアルバイトを雇用し、ウェブ公開の為のシステムの改修については外注した。

#### ◆今年度の研究成果の概要

データベースの資料の検索に関しては、ネパール語、サンスクリット等の厳密な転写に必要な補助記号等を省き、通常のネパール語の発音にほぼ対応した大まかな転写法（記号を省くと通例異なったローマ字で書かれる場合があるため実体はかなり複雑である）にもほぼ対応する形での検索が可能になることを主眼として、利便性を向上させた。さらに、資料の画像については、解像度を選択したブラウザ上に順次表示出来る機能を追加し、それに基づいて画像のアップロードを開始した。これらの画像については、現在のところデータベース本体とは別のパスワードをかけている。本年度中には、まず所内限定でデータベースの試験公開を行う予定である。また、資料スキャンの範囲を、これまで行って来たネパール語資料に加えて英語資料にも拡大した。

### 3. 東アジア美術デジタル・アーカイブ・プロジェクト / 板倉 聖哲 [造形]

#### ◆プロジェクトの趣旨、全体計画

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト、東アジア絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト、東アジア美術デジタル・アーカイブ・プロジェクト、および小川裕充名誉教授が進めてきた資料整理プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。アジア美術画像アーカイブ・プロジェクトの中心をなす中国絵画のアーカイブをより充実させるため、科研やセンター・プロジェクト等で新たに収集した資料を加工・整理し、公開していく。

『中国絵画総目録』3篇の刊行開始は日本のみならず中国・韓国美術史学会では世界的に注目されているが、同時に重版を切っ掛けとして「中国絵画所在情報データベース」は国内外のアクセスが増え、より注目されていることがわかる。又、一昨年完成した「東アジア絵画史研究文献目録」も日本の研究を世界に知らせる役目を果たしている。さらに、前々回のプロジェクトで公開を開始した新たな画像データベース「幕末期中国絵画所在情報データベース」の画像を充実させる。

#### ◆今年度の研究実施状況

既に出版を開始した『中国絵画総合図録』3編の資料整理を引き続き行い、本年9月にはヨーロッパ編である第3巻を出版し、引き続き、東アジア・オセアニア編である第4巻の出版の準備を進めている。日本所在の寺院・個人コレクションの収蔵品については、第5巻に加えるため、デジタル写真撮影・資料整理を行った。

又、2015年4月にはセンターシンポジウム「描かれた都 北京編」を開催、北京をめぐる都市図



について美術史のみならず、文学・歴史の関連からの検討を行い、2016年2月にはセンターシンポジウム「朝鮮通信使をめぐる美術」を開催、近世日本における文化交流の実態を探る糸口となる朝鮮通信使の随行画員の作品群を検討し、意見交換を行った。

さらに、「幕末期中国絵画所在情報データベース」の新たな進展のために予備的な作品調査を行った。

#### ◆今年度の研究成果の概要

『中国絵画総合図録』3編第3巻では、清時代に多く生産、ヨーロッパで流通したトレード・ペインティングの図様が俯瞰できるように調査撮影を行った成果が発表されたが、複数の研究者から感想が寄せられ、その影響が改めて実感された。

シンポジウム「描かれた都 北京編」は、学内外の研究者30名、「朝鮮通信使をめぐる美術」は20名が集い、新出作品を含めて活発な議論が行われた。

#### 4. アジア学生調査統合データの作成と利用 / 園田 茂人 [社会情報]

##### ◆プロジェクトの趣旨、全体計画

昨年度の機関推進プロジェクトで、アジア学生調査第2波調査のデータベースを作成した。また、プロジェクトに参加した学生の関心に沿った形での報告会も実施し、一応の「けじめ」もつけた。しかし、データ収集のスケジュールが押し寄せとなってしまったので、最終的には統合データを作成するところまでは行き着かなかった。そこで、本プロジェクトで、第1波調査のデータベースとのマージを行い、統合データベースを作成するとともに、調査対象となった大学の教員・若手研究者と協力して、データベースをもとにした論文集の刊行を目指す。

本来、利用部分については公募プロジェクトで実施するのが望ましいのだが、アジア学生調査に関心をもつのが海外の研究者ばかりで、日本国内で責任をもってプロジェクトを管理してくれる研究者を探すのがむずかしかった。そのため、機関推進プロジェクトとして、データベースの整備とデータを利用した論文の作成を同時に行いたい。

##### ◆今年度の研究実施状況

別予算によって実施したマレーシア、インドネシア、ミャンマーの学生調査データを従来のデータに追加し、その結果、第一波調査3264サンプル、第二波調査5006サンプル、合計8270サンプルの大規模な統合データを構築することに成功した。このデータベースを利用し、7月27日に韓国・高麗大学で開催された国際シンポジウムで成果報告を行うとともに（もともと東文研に招聘予定だったが、高麗大学がマッチングファンドを利用してホスト役を買ってくれた）、同データをフィリピン大学アジアセンターの大学院生とシェアし、2015年10月13日、27日、11月10日、24日と4回、本学東洋文化研究所と上記センターを結んだネットによる共同研究会を実施（研究会実施にあたってはメンバーを公募した）。同時にITASIA301・302の授業で、上記データを履修学生に利用させ、合計15本のタームペーパーを提出してもらった。2016年2月25日、26日に実施された、フィリピン大学アジアセンターでの国際シンポジウムでは、13名が執筆した合計11本の論文

をめぐって討議された。

#### ◆今年度の研究成果の概要

アジア学生調査の結果は、さまざまな形で紹介されるに至っている。園田茂人・蕭新煌編『チャイナ・リスクにいかに向き合うか：日韓台の企業の挑戦』（2016年、東京大学出版会）では、冒頭で学生調査の結果が紹介されている。また、上述の二つの国際会議（韓国・ソウルとフィリピン・マニラ）では、合計14本の論文が報告され、フィリピン大学アジアセンターとの共同研究会では、合計10本の論文が報告された。現在、国立シンガポール大学出版会での刊行が検討されている英文論文集に収録されるための作業が行われている。2014年のアジア政経学会年次大会での国際セッションでも学生調査の結果が触れられ、多くの研究者の関心を集めた。それ以外にも、早稲田大学の大学院生1名がデータを利用して、日中関係をめぐる英文論文1本を執筆。上記マニラ会議には招聘されなかったが、同学生の博士論文として利用される予定。また、園田が現在、学生調査のデータを利用した本を執筆している最中である。

### 5. 日本政治・国際関係データベースプロジェクト / 田中 明彦 [社会情報]

#### ◆プロジェクトの趣旨、全体計画

##### 【プロジェクトの趣旨】

我が国の内政・外交ならびに国際関係にかかる重要な政治文書などをテキストデータ化して公開している「日本政治・国際関係データベース」に、未収録の文書をテキストデータ化し、同データベースをさらに拡充する。データ作成においては、以下の4点に留意する。

①我が国の内政・外交ならびに国際関係にかかる重要な政治文書などをできる限り網羅的にテキストデータ化し、HPで公開する。

②戦前および戦後の文書で、テキスト化されていないもの、WebへのUPがされていないものを重視してHPに掲載する。

③直近の重要文書もできる限り作成する。

④世界中のどんなWeb環境においてもアクセスしやすいよう、シンプルテキストでデータ化する。

##### 【全体計画】

・平成27年度の予算：794,000円

・183件 2.13MBの文書を入力しHPで公開。

（参考： 予算申請額 1,299,000円。 入力予定件数 300件 3.5MB ）

#### ◆今年度の研究実施状況

##### 【作成及び公開ファイルの種類】

・戦後国際政治の基本文書（特にバンドン会議関連文書など）

・戦前日本外交文書（特に1800年代の政治文書など）

・国会外での首相演説

- ・国会外での外相演説
- ・日本の安全保障政策
- ・サミット関連文書
- ・APEC 関連文書
- ・ASEAN 関連文書

#### 【データベース作成作業】

データ入力及び検証は、国際政治学の専門知識を持つ大学院生などが担当。週1回程度打合せを行い、問題点を検証しながら、重要度の高い文書を選択しながら作業をすすめた。

進捗状況管理、バイト生への入力指導、サーバへのUP作業、HTMLやCSSなどの対応、HP全般の管理、データや作成マニュアルの管理などは主に特任専門職員が担当。

アクセスログをもとに、利用数を計算し、のアクセスランキング公開している。直近のものだけでなく、約16年間の蓄積されたデータを元に総合ランキングも計算し公開している。

#### ◆今年度の研究成果の概要

##### 【入力数、内容など】

今年度は、183件 2.13MB をデータベース化する予定で研究を進めたが、ほぼ予定通りの179件 3.04MB のテキスト文書を入力し、HPへUPすることができた。

特に今年度は、以下の件に重点を置いて研究をすすめた。

① バンドン会議に関する文書は、一次史料をもとに関連文書をテキスト入力するため、国会図書館などに出向き資料収集した。

② 1800年代の対象文書においては、原文の画像などをもとに、手書き文書をテキスト入力した。

③直近の資料である、ASEAN関連文書、サミット文書などは、関係省庁から文書が公開され次第、テキストデータ化してHPへ公開した。

##### 【利用者数】

今年度の利用者数は、以下の通り（2016年3月末現在）

HP 全体 1,772,923件                      文書のみ 1,510,384件

HP 全体の利用者数は1ヶ月あたり平均約147,743件と、昨年度の1ヶ月あたりの平均約139,200件と比べ約6%利用者数が増えた。

## 6. 中国における省別、企業別食糧貿易資料の収集と整理 / 張 馨元 [文献・社会情報]

#### ◆プロジェクトの趣旨、全体計画

本プロジェクトは中国各省の地方誌（主に商業誌、糧食誌、経貿誌）及び国有企業（主に中糧集団、食糧主産地の各省の国有食糧企業）の企業誌を主たる材料とし、2000年代までの中国食糧貿易に関する資料の収集と整理を目的としている。

中国の食糧貿易の特徴は、①輸出と輸入の両方において規模が大きい、②年間数量の変動が大きい、の2点にまとめることができる。これまでの統計資料に基づいた学術研究は、主要作物別の数

量から食糧貿易の趨勢を分析するものがほとんどである。食糧貿易の変動を説明するのに不可欠である国内の食糧流通構造や、貿易担い手である国有食糧貿易企業の役割に関する研究は、中国の国内外を問わず、空白に近い状態である。そこで、本プロジェクトは地方誌と企業誌に掲載している関連資料を整理し、資料集を公開することによって、食糧貿易の全貌をより明確にするための研究材料を日本及び海外の研究者に提供したい。

#### ◆今年度の研究実施状況

平成 27 年度の活動は、当初の計画に基づき、資料の整理と発表に重点を置いた。具体的には、アシスタントを 1 名雇用し、関連資料の整理と分析を行った。平成 28 年 1 月末時点では、申請者とアシスタントの 2 人体制で、一貫性と信憑性がより高いデータの選別しつつ、データ集の作成を行っている。資料収集に関しては、平成 27 年 7-9 月に申請者は必要な統計資料を中国から調達し、本プロジェクトの資料収集作業を終えた。

また、平成 27 年 12 月 12 日に東洋学研究情報センター国際シンポジウム「中国の食糧流通と貿易」を開催し、本プロジェクトの一部成果を公開した。同シンポジウムは、中国から専門家 4 名、国内他大学から専門家 3 名を招聘し、参加者である国内外の研究者約 30 名とともに、中国の食糧流通と貿易について議論を交わした。

#### ◆今年度の研究成果の概要

1) 本プロジェクトの成果を国内外の学者に広く活用してもらえよう、2015年12月12日に東洋文化研究所にて国際シンポジウム『中国の食糧流通と貿易』を開催した。シンポジウムの第1部では、計画経済期から現在までの中国における食糧流通と貿易の情勢について、張馨元（東洋文化研究所）の他、松村史穂（北海道大学）、胡小平（西南財経大学）、司偉（中国農業大学）の各氏がそれぞれ報告を行った。第2部では、池上彰英（明治大学）と范丹（西南財経大学）が第1部の4報告に対してそれぞれコメントを与えたあと、参加者全員が食糧流通システムの変化、1970年代の人口変化と食糧需給、2013年以降のトウモロコシ在庫過剰などの問題について質問や意見が交わされた。

2) 平成 28 年 3 月末に英文データ集 China Grain Assembly1950-2014, 現代中国研究拠点研究シリーズ No. 16 (科研費プロジェクト若手研究 B 【代表者：張馨元】との共同成果) を刊行した。

## 一般プロジェクト

### 1. 富山妙子画伯コレクション—第三世界と Narrative Art—／真鍋祐子[文献・造形・社会情報]

#### ◆プロジェクトの趣旨、全体計画

申請者は1921年生まれの画家・富山妙子氏より所蔵資料の寄贈を受け、その整理と一般公開の為のデータベース構築を目的として、本プロジェクトを推進する。

炭鉱・韓国民主化闘争・慰安婦等を題材とした作品群が、主に70年代以降、トランスナショナルなネットワーク（キリスト教、アムネスティ等）を通じて欧米経由で国際的な人権運動に与し、非合法的に東南アジアやアフリカ諸国に流出したことで当該国の民主化を促す等の narrative art の役割をはたした点に焦点をあてる。氏の作品がコラージュされた各国の装丁本、冊子、ポスター、チラシの他、インタビュー記事、作品の伝播に伴い生じた各国知識人との交流に関わる手紙等の一次資料、取材旅行で撮影された写真等（60年代の中南米、オリエントを含む）の民族誌資料、制作のベースをなす文献等を取り扱うことで、第三世界におけるアートを通じた民主化プロセスを解明する。

#### ◆今年度の研究実施状況

富山氏が自宅に所蔵する資料のうち、約8割に相当する419点を整理し、目録にまとめた。内訳は、富山著作・装丁本など45、参考図書262点、美術関連書籍64、一次資料等ファイル48となっている。韓国民主化運動を中心とした富山作品の各テーマに焦点をあてた昨年度に対し、今年度は70年代以降の創作活動において narrative art という美術理論の礎となった50～60年代の炭鉱、中南米、オリエント等でのフィールドワークと創作活動の連関性について、美術史、思想史等の視点から整理を行うと同時に、富山氏の人生の初期に経験された満洲での植民地体験や、その後の幅広い読書体験等も視野に収めることで、富山作品の理念がいかにかに構成されてきたかに力点を置いた。

また、すでに前年度で整理を終えた韓国民主化運動関連資料のデータベース化を進めるための、全資料のデジタルデータ化はほぼ完了することができた。

#### ◆今年度の研究成果の概要

受け入れた資料は、①参照文献・資料、②人的交流（手紙、写真）、③本や冊子の装丁、チラシ、ポスター、インタビュー記事（日、キューバ、チリ）等、④作品図録、⑤富山氏の作品を用いてのスライド、映画、⑥50～60年代の炭鉱や中南米、オリエントへの取材旅行における写真、スケッチ、⑦レコード、CD等の音源である。これらの資料は、言語別では日本語、韓国語、英語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語等、国別では日本（在日朝鮮人を含む）、中国（旧・満洲を含む）、韓国、ロシア、アメリカ、フランス、ドイツ、チリ、キューバ、ブラジル等、領域別では美術理論、画集、ポストコロニアル、フェミニズム、民俗、歴史、政治思想、ノンフィクション、詩・小説その他となっており、多層的・多面的な経験と知識に基づいて形成された理念や信念が、いかに一画家の作品世界を構成してきたかが明らかになった。ただし、これらの資料を整理して目録にまとめることが今年度の研究実施計画であり、まだ具体的な研究成

果の発表には至っていない。それは来年度以降の実施計画へと引き継ぐことになっている。

## 2. ラジャブザーデ文書コレクションの研究 / 森本 一夫 [文献]

### ◆プロジェクトの趣旨、全体計画

ラジャブザーデ文書コレクションとは、旧大阪外国語大学ペルシア語学科で長く教鞭を執られ、イラン史、日本・イラン関係史などの分野で顕著な業績を残してこられたハーシェム・ラジャブザーデ博士の私蔵にかかるイランの文書コレクションである。おおむね 19 世紀前半以降の数百点の原文書を含む極めて貴重なコレクションである。ラジャブザーデ博士は当コレクションの東洋文化研究所への寄贈を申し出ておられ、将来的には東洋文化研究所に所蔵されることになる。

当プロジェクトは、ラジャブザーデ文書コレクションに含まれる文書群を主題にもとづいて整理し、特に重要な文書に関しては、さらに翻刻・研究および写真版の刊行を行うものである。ラジャブザーデ博士、これまでもラジャブザーデ博士とともに研究を進めてこられた江浦公治氏、および東洋文化研究所の森本一夫が中心となって推進する。主題別に毎年 1 冊の研究成果の公刊を期す。

### ◆今年度の研究実施状況

平成 27 年度は、宗教生活、およびそれと深く関係する宗教法廷に関する文書の整理・研究を中心的な課題とし、電子メールなどで連絡をとりながら研究を進めた。民衆の信仰実践に関わる文書、宗教者が担っていた民間法廷などに関する文書などを整理し、読解を進め、特に重要な文書を選別した上で、その翻刻作業と写真版の作成を行った。扱った文書の主題は、宗教税、礼拝と断食、巡礼と（代理）参詣、財産権上の和解事案、寄進財、遺言（以上、宗教生活に関わる文書）、土地所有権をめぐる係争、土地の不法占拠をめぐる係争、金銭貸借をめぐる係争、代理権の設定、証言に関わる諸事案、誓言による係争事案の終結、禁治産の宣告、殺人・傷害の賠償金に関する事案（以上、宗教法廷に関わる文書）など、多岐にわたった。

### ◆今年度の研究成果の概要

平成 27 年度の研究成果として、ハーシェム・ラジャブザーデ（著）；江浦公治（協力）；森本一夫（序文）『カージャー朝期のイランの宗教・司法関連文書』（ペルシア語文書集成，3）を完成させることができた。本書は、125 件の文書の写真版とその翻刻を、それらが扱う案件にしたがって分類しつつ呈示した書物である。本書が刊行されれば、ラジャブザーデ文書コレクション中の宗教生活・宗教法廷に関する文書群へのアクセスは格段に容易となり、19 世紀を中心とする時期のイランの地域社会史、宗教生活史などに関心をもつ国内外の方々に裨益するところ大となろう。なお、当プロジェクトとしては東洋学研究情報センター叢刊の一冊として本書が刊行されることを希望しており、来年度の刊行募集に応募する予定である。

## 5. 研究成果の公開・発信事業

### 1) センターホームページの更新・運営

その時々イベントや成果について、逐次センターのホームページで紹介した。

(<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp>)

### 2) 出版

ニューズレター『明日の東洋学』第34・35号を刊行した。国公私立大学、関連学会・機関へ送付した。全てのバックナンバーはPDFファイルとしてホームページ上(<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/pub/newsletter.html>)で公開している。

#### ○第34号(平成27年10月)

「共同利用・共同研究拠点 共同研究課題の成果特集 第3号」

・禅律寺院における宋式「首楞嚴呪」「施餓鬼」儀礼 西谷 功

・日本所在漢籍に見える東アジア典籍流伝の歴史的研究

—宮内庁書陵部蔵漢籍の伝来調査を中心として— 高橋 智

・『広島大学文学部舊藏漢籍目録』の刊行 赤迫 照子

#### ○第35号(平成28年3月)

・はじめに 松田 康博

・台湾個人文書の発掘と“消え去った選択肢”の重み 清水 麗

・国民党は何故大陸統治に失敗したのか—訓政にみる独裁と民主— 岩谷 將

東洋学研究情報センター叢刊は第20輯『広島大学文学部舊藏漢籍目録』(赤迫 照子編)、第21輯『黄土地上来了日本人 [続] —中国山西省 三光政策村の記憶—』(大野 紀子編)の2冊を刊行し、関連機関への配布を行った。

平成25-26年度採択の公募プロジェクト「政治的リスクと人の移動：中国大国化をめぐる国際共同研究」(申請者：加茂具樹・慶應義塾大学教授)の成果が、平成28年3月8日に、『チャイナ・リスクといかに向きあうか：日韓台の企業の挑戦』(園田茂人・蕭新煌編、東京大学出版会)として出版された。

### 3) アジア研究情報 Gateway

日本国内におけるアジア研究の動向として、若手アジア研究者の研究情報を平成15年度からセンターホームページ上で紹介している。「論集～アジア学の最前線」において若手研究者への投稿を呼びかけており、各種の研究エッセイを掲載、若手アジア研究者の研究情報や意見の交換の場を目指している。その他、アジア各国の書店・図書館情報なども情報提供し

ている。

平成27年度は以下の情報を掲載した。

<http://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/asj/index.html>

【図書館・文書館ガイド、書店ガイド】

- ・ヘブロン（パレスチナ） 山本 健介
- ・ラーマッラーおよびナーブルス（パレスチナ） 鈴木 啓之

【アジア学の最前線】

- ・「難民」とフィルモア大統領国書の翻訳 張 厚泉
- ・空飛ぶマダム・バタフライ～JAL 創業時のおもてなしと日本へのまなざし 中野 嘉子
- ・西周の翻訳と啓蒙思想（その一）——朱子学から徂徠学へ、百学連環に至るまで  
張 厚泉
- ・西周の翻訳と啓蒙思想（その二）——朱子学から徂徠学へ、百学連環に至るまで  
張 厚泉
- ・The Application of Treaties in Late Qing: Focusing on the Prohibition of the Preaching Right of Japanese Monks 顔 麗媛(YAN Liyuan)
- ・「電気」の意味変遷と近代的な意義——A.コントの「三段階の法則」の視点を中心に——  
張 厚泉

4) 東洋学研究情報センターセミナー・シンポジウムの開催

対外発信の強化のため、機関推進・公募研究プロジェクトなどの成果公開のための東洋学研究情報センターセミナーと称する公開セミナーの開催を平成25年度に開始した。

【東洋学研究情報センターシンポジウム】

2015.4.13 「描かれた都—北京編」

2015.12.12 「中国の食糧流通と貿易」

2016.1.26 「アジアを知る—エジプト映画『678』から

／Knowing Asia: Through Egyptian Film 678」

2016.2.17 「朝鮮通信使をめぐる美術」

2016.3.17 「中世寺院における宋代仏教受容の統合的研究

—泉涌寺流を中心とした宋代仏教の相対化への試み—」

【東洋学研究情報センターセミナー】

2015.4.28 「映画から見る中東社会の変容研究会（『ロンドン・リバー』）」

2015.5.27 「映画から見る中東社会の変容研究会（『チャドルと生きる』）」

2015.6.24 「映画から見る中東社会の変容研究会（『少女ヘジャル』）」

2016.2.11 「映画から見る中東社会の変容研究会（『敷物と掛布』）」



【その他】

○東洋学研究情報センター共催国際シンポジウム”

2015.7.27-28 Toward the Construction of East Asian Sociology: Challenges of Asian Student Survey and beyond” (高麗大学社会調査研究所)

○東洋学研究情報センター国際ワークショップ

2016.2.25-26 Changing Attitudes of the Students and the Future of Asia: Analysis of Asian Student Survey Integrated Dataset (フィリピン大学アジアセンター)

○東洋文化研究所・東洋学研究情報センター共催 公開講座

2015年7月7日 夏の公開講座

- ・「中東の激動を読む―「アラブの春」論を越えて」長澤 榮治
- ・「小千谷の闘牛：フィールドとの関わり」菅 豊

2015年10月17日公開講座「アジアの和」

- ・「日本と台湾の120年 -『相思相愛』の記憶は『美しき誤解』か?-」松田 康博
- ・「水を運ぶグルー -南インド農村部における宗教リーダーの役割-」池亀 彩

## 6. 研修事業

### 1) 漢籍整理長期研修

平成27年6月8日～9月11日に実施し、10名が受講した。

### 平成27年度漢籍整理長期研修 日程・課目・講師

日 程	時 間	課 目		講 師	備 考
6月8日(月)	9:30～ 10:00	開講式 オリエンテーション		高見澤 磨 (東洋学研究情報センター長)	
	10:00 ～ 17:00	漢籍版本目録概説	講義	大 木 康 (東洋学研究情報センター教授)	
6月9日(火)	9:00～ 17:00	四部分類について	講義	古 勝 隆 一 (京都大学准教授)	
6月10日(水)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(1)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館教授)	
6月11日(木)	9:00～ 17:00	漢籍整理実習(2)	実習	陳 捷 (国文学研究資料館教授)	
6月12日(金)	9:00～ 17:00	朝鮮印刷文化について	講義	藤 本 幸 夫 (富山大学名誉教授)	
6月15日(月) ～9月4日(金)		所属図書館等所蔵漢籍整理及び研究	自習		
9月7日(月)	9:00～ 17:00	和刻本について	講義	長 澤 孝 三 (元国立公文書館内閣文庫長)	
9月8日(火)	9:00～ 17:00	東洋文庫について	講義	會 谷 佳 光 (東洋文庫図書部資料整理課・ 閲覧複写課課長)	東洋文 庫見学 を含む
9月9日(水)	9:00～ 17:00	漢籍データベースの利用と 構築	講義	安 岡 孝 一 (京都大学教授)	
9月10日(木)	9:00～ 17:00	漢籍補修法	講義	細井 歌寿男, 青池 香名子 (宮内庁書陵部)	
9月11日(金)	9:00～ 16:30	漢籍整理実習(3)	実習	高 橋 智 (慶應義塾大学教授)	
	16:30 17:00	修了式		高見澤 磨 (東洋学研究情報センター長)	

#### 平成27年度漢籍整理長期研修研修員所属先一覧

1. 東京大学総合図書館
2. 東京大学東洋文化研究所図書室
3. 秋田大学附属図書館
4. 愛知教育大学附属図書館
5. 成蹊大学図書館
6. 大東文化大学図書館
7. 台東区立書道博物館
8. 神戸市立中央図書館
9. 国文学研究資料館
10. 国立国会図書館

#### 7. その他

- 1) 全国文献・情報センターの一員として四センター（京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター・一橋大学経済研究所附属社会科学統計情報研究センター・神戸大学経済経営研究所附属企業資料総合センター）で引き続き連携をとっている。